

(様式第 10)

分大医総病第 2
令和 2 年 (2020 年) 1

厚生労働大臣

殿

国立大学法人大分大学長

開設者名 北野正

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、2019 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏 名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地	電話 (097) 549 - 4411
----------------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科 2児童精神科 3神経小児科 4形成外科 5病理診断科 6リハビリテーション科 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	418人	43人	433.9人	看護補助者	33人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	2人	12.5人	理学療法士	11人	臨床検査技師	52人
薬 剤 師	40人	0人	40人	作業療法士	9人	衛生検査技師	0人
保 健 師	1人	0人	1人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	27人	0人	27人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	681人	29人	704.3人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	175人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	35人	その他の職員	48人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	48人	眼科専門医	13人
外科専門医	39人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	9人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	7人	救急科専門医	10人
		合 計	218人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (三股 浩光) 任命年月日 令和2年4月1日

平成24年 4月～平成29年3月 医療安全部長
 平成16年10月～現在まで メディカル・リスクマネジメント委員会
 平成17年 4月～現在まで 感染予防対策委員会

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	521.9 人	9.4 人	531.3 人
1日当たり平均外来患者数	1053.2 人	45.8 人	1099 人
1日当たり平均調剤数			1,905.81 剤
必要医師数			117.8975 人
必要歯科医師数			5 人
必要薬剤師数			24 人
必要(准)看護師数			303 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病床数	心電計	有・無	有・無
集中治療室	236.08m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.71 m ² [移動式の場合] 台数 19 台		病床数	8 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 45 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	220 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動生化学分析装置		
細菌検査室	148 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	血液培養装置		
病理検査室	139 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動免疫染色装置、マイクローム		
病理解剖室	283 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、撮影装置		
研究室	4,585m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン、顕微鏡		
講義室	1,635m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	収容定員	1,495 人
図書室	1,703m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	蔵書数	108,228 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	87.4%	逆紹介率	74.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数			10,276人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,581人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			965人
	D: 初診の患者の数			12,858人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input type="checkbox"/> 無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無
公表の方法 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	Squid captureを用いたIn-situ fenestrationによる血管内治療での弓部大動脈再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 全身状態不良患者さんの弓部大動脈瘤に対して大動脈内でステントグラフトに枝を作成し弓部大動脈再建を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する腹部分枝バイパスを併用した非開胸ステントグラフト治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 全身状態不良な患者さんの胸腹部大動脈瘤に対して腹部4分枝を人工血管でバイパスしたのちにステントグラフトを挿入して治療する。			
医療技術名	自己心膜を用いた大動脈再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 大動脈弁疾患の患者さんに対して人工弁を用いずに自己心膜をグルタルアルデヒドで固定したものでリーフレット(弁葉)を作成し、それを用いて大動脈弁再建する手術			
医療技術名	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 マルチプレックスPCR法を用いて迅速に13種類の日和見性ウイルスを同時に増幅することにより、造血幹細胞移植後のウイルス感染症の早期診断を可能とする			
医療技術名	HLA半合致同種造血幹細胞移植	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植を必要とするも適切なHLA一致ドナーが見つからない血液疾患患者に対し、移植後シクロフォスファミド投与によるGVHD制御を行い、HLA半合致ドナーからの移植を行う			
医療技術名	難治性てんかん患者に対する迷走神経刺激療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 難治性てんかん患者に対して、迷走神経刺激装置を体内に埋め込み、電気刺激を調整することにより、てんかん発作の治療を行う。			
医療技術名	ヌシネルセン髄空内投与	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 脊髄性筋萎縮症患者に対し、ヌシネルセンの髄空内投与による治療を行っている。			
医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節をエコーガイド下に穿刺吸引生検、診断を行う。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下経気管支肺生検	取扱患者数	101人
当該医療技術の概要 ナビゲーションシステムを用い、病巣との関与が考えられる気管支を同定、気管支鏡検査時間の短縮を図る。ナビゲーションの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的病変に確実に的中させ、ガイドシースを留置、同病変からの繰り返しの生検を行えるようにする。			
医療技術名	気管支サーモプラスチック	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 気管支鏡に電極付きのカテーテルを挿入し、高周波電流で気管支壁に熱を加えることで、喘息の原因となる肥厚した気道平滑筋の量を健常人に近づけ、気管支の収縮を抑制し、喘息の病態を改善する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	12
2	筋萎縮性側索硬化症	30	57	特発性拡張型心筋症	7
3	脊髄性筋萎縮症	30	58	肥大型心筋症	10
4	原発性側索硬化症	30	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	6	60	再生不良性貧血	13
6	パーキンソン病	70	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	10
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トウス病	5	65	原発性免疫不全症候群	0
11	重症筋無力症	14	66	IgA腎症	5
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	4
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	5	68	黄色靱帯骨化症	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	12	69	後縦靱帯骨化症	0
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロー・深瀬症候群	2	71	特発性大腿骨頭壊死症	17
17	多系統萎縮症	4	72	下垂体性ADH分泌異常症	3
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	7	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	11
22	もやもや病	10	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	4
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	2
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	12	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	10
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	75
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	6
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	12
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	8	88	慢性血栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	14	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	0	90	網膜色素変性症	24
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	6
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	1	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	4
42	結節性多発動脈炎	8	97	潰瘍性大腸炎	15
43	顕微鏡的多発血管炎	1	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	4	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	2	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	1
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	1
47	パーシャール病	1	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	46	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	26	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	7	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	8	107	若年性特発性関節炎	1
53	シエーグレン症候群	39	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	8	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	5
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	8	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	2	166	弾性線維性仮性黄色腫	5
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	5	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	8	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	12	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	8	172	低ホスファターゼ症	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	1
126	ペリー症候群	14	176	コフィン・ローリー症候群	2
127	前頭側頭葉変性症	5	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	2	178	モワット・ウィルソン症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	7	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	1
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	30	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	1
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	1
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	5
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	2
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	14	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	1	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シンブソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	14	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	2	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	1	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治顔回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	13	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	3
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	3	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	3	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	5
222	一次性ネフローゼ症候群	16	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	7
224	紫斑病性腎炎	9	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	1
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	2
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	3
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	5
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	4	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	70
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	1
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	32
248	グルコーストランスポーター1欠損症	3	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肝炎	6
251	尿素サイクル異常症	9	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	7
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	24
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	13
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	52
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	22
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	6

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	7	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	4	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	2
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	9	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	7
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	8
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・後発医薬品使用体制加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院診療基本料(一般病棟7対1)	・データ提出加算2
・特定機能病院入院診療基本料(精神病棟13対1)	・入退院支援加算1、入退院支援加算の注4 (入院時支援加算)及び地域連携診療計画加算
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算2
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算1	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・精神科急性期医師配置加算2
・急性期看護補助体制加算2(25対1看護補助者5割未満)	・救命救急入院料3
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・特定集中治療室管理料2、特定集中治療室管理料の注4 (早期離床・リハビリテーション加算)
・看護補助加算2(精神病棟のみ)	・新生児特定集中治療室管理料1
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2及びプレイルーム加算
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・高度難聴指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・腎代替療法実績加算	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・喘息治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・糖尿病合併症管理料	・遺伝学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料イ	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん患者指導管理料ロ	・がんゲノムプロファイリング検査
・がん患者指導管理料ハ	・先天性代謝異常症検査
・がん患者指導管理料ニ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(1.臓器移植後の場合)	・検体検査管理加算(IV)
・移植後患者指導管理料(2.造血幹細胞移植後の場合)	・国際標準検査管理加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料の注5(高度腎機能障害患者指導加算)	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・乳腺炎重症化ケア・指導料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・胎児心エコー法
・腎代替療法指導管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ニコチン依存症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん治療連携計画策定料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・神経学的検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・黄斑局所網膜電図、全視野精密網膜電図
・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)	・コンタクトレンズ検査料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内服・点滴誘発試験	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・画像診断管理加算3	・導入期加算2
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・センチネルリンパ節加算
・CT撮影及びMRI撮影	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・冠動脈CT撮影加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・外傷全身CT加算	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・大腸CT撮影加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・心臓MRI撮影加算	・内皮移植加算
・乳房MRI撮影加算	・羊膜移植術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・頭部MRI撮影加算	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・外来化学療法加算1	・網膜再建術
・連携充実加算	・人工中耳植込術
・無菌製剤処理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)及び初期加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)及び初期加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・がん患者リハビリテーション料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2
・救急患者精神科継続支援料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術、胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)
・精神科作業療法	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)、(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・内視鏡下筋層切開術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医療保護入院等診療料	・胸腔鏡下弁形成術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経カテーテル大動脈弁置換術	・生体腎移植術
・胸腔鏡下弁置換術	・膀胱水圧拡張術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・子宮附属器腫瘍摘出術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・輸血管理料 I
・経皮的下肢動脈形成術	・コーディネート体制充実加算
・ダメージコントロール手術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・同種クリオプレシピテート作製術
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下腭腫瘍摘出術	・放射線治療専任加算(歯科診療以外)
・腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術	・外来放射線治療加算(歯科診療以外)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・同種死体腎移植術	・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	前立腺癌骨転移において骨髄由来間葉系幹細胞が癌細胞の悪性形質獲得に与える影響	野村 威雄	腎泌尿器外科学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
2	子宮内膜症において発現が増強しているmiR-100の意義に関する研究	奈須 家栄	産科婦人科	1,040,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
3	心臓再同期療法の治療効果に血管内皮機能が与える影響	油布 邦夫	循環器内科・臨床 検査診断学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
4	肥満症における新たな認知機能関連脳内因子の解析	正木 孝幸	内分泌・糖尿病内科	910,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
5	膵癌の進展に関わる新規がん抑制遺伝子ZNF395の機能解明と臨床応用	村上 和成	消化器内科学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
6	大腸癌におけるDUSP4の機能的意義の解明と治療への応用	一万田 充洋	消化器・小児外科学	2,210,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
7	同種造血幹細胞移植におけるHHV-6感染症と認知機能障害の関連性の解明	緒方 正男	輸血部	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
8	薬剤耐性ピロリ菌の新規治療法ーLED光線を用いた新規除菌治療装置の開発ー	平塚 孝宏	消化器外科	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
9	オートファジーが出生直後の飢餓対応に果たす役割の検討	関口 和人	小児科学	780,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
10	Rhoエフェクター分子は、角層バリアの恒常性維持に関与する。	波多野 豊	皮膚科学	1,300,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
11	加齢や炎症が腸管免疫活性に与える影響ー大腸癌発生母地との関連	上田 貴威	総合外科・地域連 携学	910,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
12	肥満・糖尿病を背景とした肝癌患者における胆汁酸組成変化と発癌メカニズムの解明	岩下 幸雄	消化器外科	650,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
13	膵癌の浸潤・転移に関する糖鎖の同定と新規治療薬の開発	平下 禎二郎	消化器外科	390,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
14	くも膜下出血急性期の病態形成を制御する炎症性サイトカインの機能解明と治療法の開発	阿南 光洋	脳神経外科学	1,040,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
15	ユースング肉腫特異的融合遺伝子タイプによるマイクロRNA発現制御機構に関する解析	河野 正典	整形外科	1,820,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会

16	FEMシミュレーションによる日本人大腿骨の疾患及び年齢に伴う応力形態に関する研究	加来 信広	整形外科学	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
17	閉鎖神経の走行様式に対応した超音波ガイド下閉鎖神経ブロック穿刺法の開発	内野 哲哉	麻酔科	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
18	膜型人工肺を用いた水素投与による新規治療法の開発	古賀 寛教	集中治療部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
19	Dexmedetomidineの抗酸化能の検討: スピン共鳴解析を用いて	北野 敬明	麻酔科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
20	術後認知機能障害および術後せん妄に対する周術期抗酸化戦略の確立	松本 重清	麻酔科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21	人工心肺中の血液浄化アプローチによる心臓手術関連急性腎傷害の新規予防法の開発	日高 正剛	麻酔科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
22	上気道粘膜免疫応答と自然リンパ球の関与	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
23	新規アジュバントを用いた鼻腔投与型インフルエンザウイルスワクチンの開発	川野 利明	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
24	低ナトリウム血症による心筋障害の機序解明と新規心不全治療戦略の構築	手嶋 泰之	検査部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25	臨床的放射線耐性口腔癌細胞を用いた放射線抵抗因子の解明	山本 哲彰	歯科口腔外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
26	視覚認知能に着眼した鎮静時の標的行動の解明と教育プログラムの開発・検証	久我 修二	小児科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
27	適正使用を志向したがん化学療法に伴う副作用に対する漢方方剤の個別化治療への展開	佐藤 雄己	薬剤部	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
28	心不全が引き起こす洞結節機能障害のメカニズム解明と新たな治療方法の開発	篠原 徹二	循環器内科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
29	双極I型障害とII型障害の違いに着眼した、画像所見や薬物反応性の比較研究	寺尾 岳	精神神経医学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
30	認知症予防に着眼した日本全国を対象とした調査:水道水リチウムの効果	石井 啓義	精神神経医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
31	小児固形がん患者に対して包括的な認知機能評価と支援を行い、QOL向上を目指す研究	末延 聡一	小児科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
32	劇症型アニサキス症における発症要因・メカニズムの解明とリスク管理の構築	水上 一弘	卒後臨床研修センター	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

33	新規サーファクタント遺伝子変異モデルを用いた肺線維化の分子機構の解明	濡木 真一	呼吸器内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
34	サルコイドーシスにおける制御性T細胞の機能と治療機構からみた治療法の解明	安東 優	呼吸器・感染症内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
35	糖尿病性腎症におけるポドサイト障害: MR蛋白修飾の制御による新たな治療法の確立	柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
36	RNAiを用いた真菌血症に対する新たな治療戦略	平松 和史	医療安全管理医学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
37	消化管癌腹膜播種に対するレーザー光線を用いた新規光線照射装置の開発	白下 英史	消化器外科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
38	神経特異的発現蛍光物質を用いた術中自律神経同定法の開発	河野 洋平	高度救命救急センター	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
39	染色体不安定性を有する肺癌に不可欠なゲノム維持機構の解明と合成致死治療への応用	岡本 龍郎	呼吸器・乳腺外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
40	肉腫型染色体転座をつくる。-その基礎となるDNA修復過程の演繹的証明	田仲 和宏	人工関節学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
41	外尿道括約筋幹細胞における抑制系シグナル伝達経路の制御による尿失禁治療法の開発	三股 浩光	腎泌尿器外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
42	乳幼児突然死症候群に潜在する先天性代謝異常症の探索と遺伝カウンセリング体制の構築	島田 祐美	小児科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
43	脳性麻痺早期発見・介入に向けたFidgety運動判定システムの開発	前田 知己	小児科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
44	肥満を伴うサルコペニア発症予防における腸内環境の重要性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
45	小児がん長期生存者のQOL向上を目指した医療・教育・福祉の連携体制の確立	平野 直樹	小児科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
46	アルブミンの質的変動を基盤とした抗MRSA薬TDMへの展開	田中 遼大	薬剤部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
47	強皮症におけるSHP-2の役割および治療標的としての有用性の解明	前島 圭佑	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
48	TRAF6シグナルが制御するSLPIの腸管組織における恒常性維持機能の解析	園田 光	消化器内科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
49	Slc7a5によるヒトB細胞の制御機構および膠原病治療標的としての有用性の究明	鳥越 雅隆	膠原病内科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

50	炎症性皮膚疾患の病態形成に関わる抗菌ペプチドmBD14の発現制御機構の解明	広瀬 晴奈	皮膚科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
51	レクチンマイクロアレイを用いた肝細胞癌の分化に関する糖鎖プロファイリング	高山 洋臣	消化器・小児外科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
52	脳内情報伝導速度の可視化で客観化する症候性脳血管攣縮prediction	川崎 ゆかり	脳神経外科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
53	子宮内膜症において発現が亢進しているmiR-100の意義に関する研究	竹林 兼利	産科婦人科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
54	性差による口腔癌発症過程の違いとそれに基づく癌化予測についての研究	阿部 史佳	歯科口腔外科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
55	髄膜腫に対する効率的ながんウイルス療法の確立	札幌 博貴	脳神経外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
56	敗血症性急性腎傷害に有効な血液浄化膜の検討	大地 嘉史	麻酔科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
57	早期反応性マーカーを用いた胃癌RTK/KRAS標的治療における感受性予測法の確立	平下 有香	消化器内科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
58	ミエリン・マッピング法と神経突起イメージングを用いて気分障害を弁別する試み	秦野 浩司	精神科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
59	自殺企図者の微量リチウム濃度:症例対照研究	兼久 雅之	精神科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
60	ハッチンソン・ギルフォード症候群患者のQOL向上を目指したケアシステムの確立	川野 奈々江	小児科	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
61	SLEに対する抗炎症性脂質メディエーターOEA、PEAの機能解明と有用性の検討	尾崎 貴士	膠原病内科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
62	ポータブル型パルスCOオキシメータを用いた周術期禁煙指導の有効性の検討	佐々木 美圭	麻酔科	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
63	骨肉腫細胞の浸潤・転移機構におけるケモカインの意義の解明	岩崎 達也	整形外科	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
64	Wnt/ β -catenin経路阻害剤を子宮内膜症治療に応用する	平川 東望子	産科婦人科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
65	ANCA関連血管炎性中耳炎発症トリガーとなる中耳感染の関与とサイトカインの解析	立山 香織	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
66	ラマン散乱光を用いた脂肪浸潤を伴う心房線維化の同定～心房細動の新たな治療戦略～	安部 一太郎	循環器内科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

67	アミンオリゴマー制御による糖尿病、糖尿病性心筋症・認知症の画期的予防治療薬開発	松原 悦朗	神経内科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
68	発熱性好中球減少症時の抗菌薬適正使用と予後改善を志向した新規バイオマーカーの開発	伊東 弘樹	薬剤部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
69	全身性慢性炎症とNVU障害を基盤としたアルツハイマー病の病態解明	木村 成志	神経内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
70	抗Aβオリゴマー最小フラグメント抗体を用いた次世代抗体医薬品の開発	藪内 健一	神経内科学	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
71	新規治療の確立を目的とした全身性強皮症の血管病変モデルの作製	後藤 瑞生	皮膚科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
72	ナノポアシークエンサーを用いた同種造血幹細胞移植後の網羅的ウイルス感染の検出	河野 利恵	血液内科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
73	Dual energyと超遅延相造影CTによる4次元CT血管造影エンドリーク診断	本郷 哲央	放射線科	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
74	血糖値変動は冠攣縮性狭心症発症の危険因子となりうるか	秋岡 秀文	循環器内科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
75	重症外傷患者における酸化ストレス制御を目的としたビタミンC補充療法の確立	竹中 隆一	救急医学講座	2,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
76	ラット脊椎固定モデルにおけるBMPと抗スクレロシン抗体の相互効果の検討	宮崎 正志	整形外科	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
77	ユースイング肉腫特異的融合遺伝子によるRNAヘリカーゼAの機能抑制に関する研究	糸永 一郎	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
78	NLRP3インフラマソームからみた前立腺炎症の病態解明と新規治療薬の開発	森 健一	腎泌尿器外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
79	上下気道粘膜免疫における経年的免疫応答動態の解析	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
80	眼感染症・迅速病因診断法の開発ー核酸精製不要・ポータブル型多項目遺伝子検査ー	中野 聡子	眼科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
81	Wnt/β-catenin経路を標的とした増殖硝子体網膜症の治療法の開発	木許 賢一	眼科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
82	弾性線維腫の原因遺伝子同定とモデルマウス開発ー病態解明に向けて	藤原 作平	皮膚科学講座	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
83	ヒト心房筋に対する抗炎症性サイトカインIL-10の直接的及び間接的効果	近藤 秀和	循環器内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

84	DNA二本鎖切断を誘導し、口腔癌の原因となる歯周病菌と病原因子の特定	手島 理絵	歯科口腔外科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
85	肥満関連腎症における尿沈査中ポドサイトmRNA排泄量の有用性の検討と進展機序解明	福田 顕弘	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
86	遺伝性神経変性疾患に認めるtRNA由来小RNAの生理的・病理的意義の解明	井上 真紀	小児科	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
87	21水酸化酵素欠損症の治療最適化のための尿中・血中のモニタリング指標の比較検討	糸永 知代	小児科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
88	抗癌剤脱毛関連遺伝子の同定と予防法の開発	佐川 倫子	消化器外科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
89	減量手術による肥満関連肝障害の予防とメカニズムの解明	嵯峨 邦裕	消化器外科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
90	緑色波長光照射による血小板シグナルを介した肺保護効果の検討	小坂 麻里子	麻酔科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
91	ヒト胎盤栄養膜細胞における酸化ストレス負荷によるメタボローム解析	井上 尚実	産科婦人科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
92	慢性副鼻腔炎における好中球機能とTLR4およびTREM-1の協調的作用について	森山 宗仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
93	好酸球性副鼻腔炎の病態におけるエンドカンナビノイドシステムの寄与についての研究	梅本 真吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
94	発達障がいと合併した小児1型糖尿病児の自立支援プログラムの開発	松田 史佳	小児科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
95	ラット骨粗鬆症モデルにおける骨粗鬆症治療薬と運動療法の効果の検討	坪内 優太	リハビリテーション部	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
96	インドキシル硫酸による左房内皮障害を介した左房内血栓形成機序の検討	青木 宏平	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
97	機能性間質に着目した、卵巣癌における腫瘍間質の起源・役割の解明	矢野 光剛	産科婦人科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
98	ヒト単一胚細胞の新しい質的評価法の開発	西田 欣広	産科婦人科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
99	PIK3CD遺伝子の新規変異によるSLE発症の分子メカニズムの解明	清田 今日子	小児科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
100	網膜色素変性におけるミクログリアのゲノムの酸化の影響の解明	中武 俊二	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

101	胆道癌の個別化治療に向けたゲノム・分子異常予測のための画像診断法の開発	浅山 良樹	放射線医学講座	1,357,298	補委	独立行政法人 日本学術振興会
102	生体内組織合成法を用いた異種移植可能な心臓弁膜用バイオシートの開発	首藤 敬史	心臓血管外科	3,640,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
103	細胞膜・血液脳関門通過型Aβオリゴマーマイクロ抗体による新規PET画像診断の創出	松原 悦朗	神経内科学	4,160,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
104	光造形と生体内組織形成術による自己成長可能な大血管再建用バイオチューブの開発	宮本 伸二	心臓血管外科学	10,140,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
105	心外膜脂肪が心房線維化をきたす機序解明とこれを抑制する化合物スクリーニング系構築	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	6,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
106	大腸癌肝転移に対する肝切除後UFT/LV併用療法における至適投与量の探索	白岩 健	薬剤部	440,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
107	複数アジュバントを用いた新規インフルエンザウイルスワクチンの開発	木津 有美	耳鼻咽喉科学講座	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
108	ショートハイドレーション法の有用性の検証とNGAL測定の意義	大塚 恵理子	薬剤部	540,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
109	認知症患者における消化器症状に対する整腸剤の効果とグレリンとの関連性	小野 優子	薬剤部	329,336	補委	独立行政法人 日本学術振興会
110	健康寿命の延伸を目指した次世代医療橋渡し研究支援拠点:シース'A099「新規肺線維症マウスモデルを用いた特発性肺線維症の治療法開発」	濡木真一	呼吸器・感染症内科学講座	1,500,000	補委	医療研究開発推進事業費補助金(橋渡し研究戦略的推進プログラム)事業
111	Unstructured タンパク質を標的にしたドラッグデザイン手法の確立を目指した研究	上村尚人	臨床薬理学講座 表	19,800,000	補委	創薬基盤推進研究事業
112	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	田仲和宏	人工関節学	19,499,999	補委	革新的がん医療実用化研究事業
113	サルコペニア肥満に関連するマイオカイン分泌制御における喫煙の影響	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学研究財団
114	敗血症性ショック患者における急性腎傷害発症に関わる予後予測因子の検討	後藤 孝治	集中治療部	500,000	補委	一般社団法人日本血液製剤機構
115	医療改革と医学教育改革に対する地域外科勤務医の認識:外科勤務医に対するアンケート調査	上田 貴威	総合外科・地域連携学	100,000	補委	公益社団法人地域医療振興協会
116	重症外傷患者における血液凝固分析装置を用いた迅速な凝固線溶系の評価と妥当性の検討	坂本 照夫	高度救命救急センター	200,000	補委	一般社団法人日本血液製剤機構
117	大動物モデルを用いた人工心肺中のDUFが酸化ストレスに与える影響についての検討	溝口 貴之	ME機器センター	200,000	補委	一般社団法人日本体外循環技術医学会

118	肥満に伴う腸管バリアの破綻とサルコペニア発症リスクの解析	後藤 孔郎	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,000,000	補委	公益財団法人小柳財団
119	新しい作用メカニズムに基づいた抗RSウイルス薬の開発	松岡 茂	臨床薬理学	2,000,000	補委	一般財団法人ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団
120	微量なりチウムの認知症予防効果を疫学研究や臨床研究から探る。	寺尾 岳	精神神経医学	1,000,000	補委	公益財団法人先進医薬研究振興財団
121	25年間の学童期生活病検針データを用いたリスク因子の検討	前田 美和子	小児科学	300,000	補委	一般社団法人日本小児内分泌学会
122	HER2陽性胃癌患者のトラスツズマブ治療前後の生検組織を用いたPD-L1発現の変化	廣中 秀一	腫瘍・血液内科学	300,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
123	エプスタイン・バーウイルス(EBV)が関係する医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患(EBV-LPD)における、予後予測マーカーとしての抹消血中EBV-DNA	緒方 正男	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
124	切除不能進行再発大腸癌の一次治療早期不応例(3か月以内の増悪)における二次治療としてのベバシズアブ併用化学療法の効果、安全性の検討	大津 智	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
125	ナノポアシークエンサーによる成人T細胞白血病細胞のトランスクリプトーム解析	河野 利恵	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
126	網羅的PCR法を用いた同種造血幹細胞移植後のウイルス感染の研究	本田 周平	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
127	小型肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除、開腹肝切除と経皮的ラジオ波焼灼両方の治療成績の比較: SURF trial付随不随研究	増田 崇	消化器・小児外科	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団

計 127

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kimoto M Fukunaga N Yamaguchi N 他	腎臓内科	A case of denosumab-associated membranous nephropathy in a patient with rheumatoid arthritis.	Clinical and experimental nephrology case reports 9(1) 1-5 2020 2	Case report
2	Yoshida Y Gotoh K Masaki T 他	内分泌・糖尿病内科	Effects of Sleeve Gastrectomy on Blood Pressure and the Renal Renin-Angiotensin System in Rats with Diet-Induced Obesity.	Obesity (Silver Spring) 27(5) 785-792 2019 5	Original Article
3	Ozeki Y Masaki T Yoshida Y 他	内分泌・糖尿病内科	Relationships between computed tomography-assessed density, abdominal fat volume, and glucose metabolism after sleeve gastrectomy in Japanese patients with obesity.	Endocrine journal 66(7) 605-613 2019 7	Original Article
4	Nakama H Okamoto M Kurosawa K 他	内分泌・糖尿病内科	A case of adrenaline-predominant paraganglioma diagnosed with a state of shock after glucagon injection.	Hypertension research 43(5) 473-475 2020 1	Case report
5	Torigoe M Maeshima K Ozaki T 他	膠原病内科	L-leucine influx through Slc7a5 regulates inflammatory responses of human B cells via mammalian target of rapamycin complex 1 signaling.	Modern Rheumatology 29(5) 885-891 2019 9	Original Article
6	Maeshima K Shibata H	膠原病内科	Efficacy of JAK 1/2 inhibition in the treatment of diffuse non-scarring alopecia due to systemic lupus erythematosus.	Annals of the Rheumatic diseases. 79(5) 674-675 2020 1	Original Article
7	Maeshima K Okada S Shibata H	膠原病内科	Dr. Maeshima, et al, reply.	The Journal of Rheumatology 46(6) 655-656. 2019 6	Others
8	Uchida S Komiya K Honjyo K 他	呼吸器内科	A mini systematic review of prognostic factors in elderly patients with tuberculosis.	Respir Investing. 57(3) 207-212 2019 5	Review
9	Ando M Fujishima N Matsumoto H 他	呼吸器内科	Mycobacterium tuberculosis Arising in a Solitary Pulmonary Cyst.	Intern Med. 58(12) 1803-1804 2019 6	Original Article
10	Goto A Komiya K Kan T 他	呼吸器内科	Factors associated with atypical radiological findings of pulmonary tuberculosis.	PLoS One. 14(7) e0220346 2019 7	Original Article
11	Hashimoto T Sasaki H Ando M 他	呼吸器内科	Pleural Effusion Due to Adult T Cell Leukemia.	Intern Med. 58(21) 3197-3798 2019 7	Original Article

小計 11

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Kan T Komiya K Honjyo K 他	呼吸器内科	Impact of additional antibiotics on in-hospital mortality in tuberculosis isolated general bacteria: A propensity score analysis.	J Infect Chemother. 25(9) 714-719 2019 9	Original Article
13	Yamasue M Komiya K Yoshikawa H 他	呼吸器内科	Effect of long-term clarithromycin therapy on prevention of pneumonia in older adults: A randomized, controller trial.	Geriatr Gerontol Int. 19(10) 1006-1009 2019 10	Original Article
14	Honjyo K Komiya K Kan T 他	呼吸器内科	The impact of performance status on tuberculosis-related death among elderly patients with lung tuberculosis: A competing risk regression analysis.	J Infect Chemother. 26(1) 69-75 2020 1	Original Article
15	Yamasue M Komiya K Usagawa Y 他	呼吸器内科	Factors associated with False negative interferon-gamma release assay results in patients with tuberculosis: A systematic review with meta-analysis.	Sci Rep. 10(1) 1607 2020 1	Review
16	Yamasue M Komiya K Takahashi O 他	呼吸器内科	Increasing mortality rate due to rheumatoid arthritis-related lung diseases in Japan.	ERJ Open Res. 6(1) 00217-2019 2020 2	Original Article
17	Fujita N Ando M Goto A 他	呼吸器内科	Diffuse Large B-Cell Lymphoma Arising from the Lesion of Chronic Lobar Atelectasis.	Tohoku J Exp Med. 250(2) 129-135 2020 2	Case report
18	Goto A Ando M Komiya K 他	呼吸器内科	Mycobacterium abscessus subsp.abscessus empyema complicated with subcutaneous abscess.	J Infect Chemother. 26(2) 300-304 2020 2	Case report
19	Kimura N Aso Y Yabuuchi K 他	脳神経内科	Modifiable Lifestyle Factors and Cognitive Function in Older People: A Cross-Sectional Observational Study	Front Neurol 10-401 2019 4	Original Article
20	Eguchi A Kimura N Aso Y 他	脳神経内科	Relationship Between the Japanese Version of the Montreal Cognitive Assessment and PET Imaging in Subjects with Mild Cognitive Impairment	Curr Alzheimer Res 16(9) 852-860 2019	Original Article
21	Kaneko H Kimura N Nojima S 他	脳神経内科	Diagnosis of mild cognitive impairment using multiple neuroimaging modalities in addition to the Mini-Mental State Examination	Geriatr Gerontol Int 19(12) 1193-1197 2019 10	Original Article
22	Kuniko T Masao O Takako S 他	血液内科	Correlations of Cytokine Levels in Cerebrospinal Fluid and Peripheral Blood With Outcome of HHV-6B Encephalitis After Hematopoietic Stem Cell Transplantation	Transpl Infect Dis 21(6) e13172 2019 12	Original Article
23	Shuichi H	腫瘍内科	Anti-angiogenic Therapies for Gastric Cancer	Asia Pac J Clin Oncol 15(4) 208-217 2019 8	Original Article
24	Yufu K Kondo H Shinohara T 他	循環器内科	Assessment of coronary flow reserve predicts long-term outcome of responders to cardiac resynchronization therapy.	Heart Vessels 34(5) 763-770 2019 5	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
25	Takahashi N Mukai Y Kimura T 他	循環器内科	Efficacy and Safety of Uninterrupted Periprocedural Edoxaban in Patients Undergoing Catheter Ablation for Atrial Fibrillation – The Prospective KYU-RABLE Study.	Circulation Journal 83(10) 2017–2024 2019 9	Original Article
26	Oniki T Teshima Y Nishio S 他	循環器内科	Hyponatraemia aggravates cardiac susceptibility to ischaemia/reperfusion injury.	International Journal of Experimental Pathology 100(5–6) 350–358 2019 10	Original Article
27	Shinohara T Takahashi N	循環器内科	Guidelines for Atrial Fibrillation Treatment to Avoid Stroke Should Be Established for Each Region/Ethnicity.	Circulation Journal 83(12) 2413–2415 2019 11	Original Article
28	Shinohara T Takahashi N	循環器内科	High-Sensitivity C-Reactive Protein and Bleeding Events in Atrial Fibrillation Patients Treated With Direct Oral Anticoagulants.	Circulation Journal 84(3) 376–377 2020 2	Original Article
29	Fukui A Tanino T Yamaguchi T 他	循環器内科	Catheter ablation of atrial fibrillation reduces heart failure rehospitalization in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	Journal of Cardiovascular Electrophysiology 31(3) 682–688 2020 3	Original Article
30	Mizukami K Matsunari O Ogawa R 他	消化器内科	Examine the Availability and Safety of Mucosal Cutting Biopsy Technique for Diagnosis of Gastric Submucosal Tumor.	Gastroenterol Res Pract 2019 5	Original Article
31	Fukuda M Ishigaki H Sugimoto M 他	消化器内科	Histological analysis of fundic gland polyps secondary to PPI therapy.	Histopathology. 75(4) 537–545 2019 10	Original Article
32	Kawahara Y Kodama M Mizukami K 他	消化器内科	Endoscopic gastric mucosal atrophy as a predictor of colorectal polyps: a large scale case-control study	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 65(2) 153– 159 2019 9	Original Article
33	Kodama M Okimoto T Mizukami K 他	消化器内科	Differences in Helicobacter pylori and CagA antibody changes after eradication between subjects developing and not developing gastric cancer	J Clin Biochem Nutr 65(1) 71–75 2019 7	Original Article
34	Kodama M Okimoto T Mizukami K 他	消化器内科	Evaluation of a Novel Anti-H. pylori Antibody Detection Kit by Latex Turbidimetric Immunoassay.	Clin Lab. 65(6) 2019 6	Original Article
35	Fukuda M Miyake T Matsubara A 他	消化器内科	Sclerosing Mesenteritis Mimicking IgG4-related Disease	Intern Med 59(4) 513–518 2020 2	Original Article
36	Sonoda A Wada Y Togo K 他	消化器内科	Characteristic Facial Appearance Was the Key to Diagnosing Chronic Enteropathy Associated with SLCO2A1-Associated Primary Hypertrophic Osteoarthropathy	Intern Med 59(4) 491–494. 2020 2	Original Article
37	Hirakawa H	精神科	Subtyping insomnia disorder.	Lancet Psychiatry 6(4) 284–285 2019 4	Letter

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
38	Hirakawa H Terao T Takahashi N	精神科	'Hidden' corrected QT interval prolongation induced by olanzapine.	Aust N Z J Psychiatry 53(11) 1121 2019 5	Letter
39	Kugimiya T Kohno K Ishii N 他	精神科	Case of drug eruption during treatment with lithium and lamotrigine implicating a possible role of additives in the lithium tablet.	Psychiatry Clin Neurosci 73(5) 285 2019 5	Case report
40	Kobayashi S Terao T Shirahama M 他	精神科	Relationship between hyperthymic temperament, self-directedness, and self-transcendence in medical students and staff members.	Psychiatry Clin Neurosci 73(5) 277- 283 2019 5	Original Article
41	Hirakawa H Terao T Shirahama M	精神科	Light Modulation for Bipolar Disorder: A Commentary on "An Update on Adjunctive Treatment Options for Bipolar Disorder" by Dean Et Al. (2018)	Bipolar Disord 21(3) 282 2019 5	Letter
42	Sakai A Terao T Kawano N 他	精神科	Existential and Mindfulness-Based Intervention to Increase Self- Compassion in Apparently Healthy Subjects (the EXMIND Study): A Randomized Controlled Trial. Frontiers	Frontiers in Psychiatry 10 2019 8	Original Article
43	Hirakawa H	精神科	Optimal dosing of antidepressant drugs.	Lancet Psychiatry 6(10) 805 2019 10	Letter
44	Hirakawa H Terao T	精神科	Modified Interpersonal and Social Rhythm Therapy via Modulation of Ambient Light.	Bipolar Disord 21(6) 564 2019 9	Letter
45	Hatano K Terao T Hayashi T 他	精神科	Affective temperaments are associated with the white matter microstructure in healthy participants.	Bipolar Disord 21(6) 539-546 2019 9	Original Article
46	Hirakawa H Ishii N	精神科	Abortion and suicide attempt.	Lancet Psychiatry 7(3) 236-237 2020 3	Letter
47	Maeda T Iwata H Sekiguchi K 他	小児科	The association between brain morphological development and the quality of general movements.	Brain Dev. 41(6) 490- 500 2019 6	Original Article
48	Ihara K	小児科	Immune Checkpoint Inhibitor Therapy for Pediatric Cancer: A Mini Review of Endocrine Adverse Events.	Clin Pediatr Endocrinol. 28(3) 59-68 2019 7	Original Article
49	Maeda T Sekiguchi K Wasada R 他	小児科	Caffeine not associated with irritable behaviour in very low-birth-weight infants.	Early Hum Dev 137 104835 2019 10	Original Article
50	Maeda M Maeda T Ebihara K 他	小児科	The long-term management of congenital generalized lipodystrophy (Berardinelli-Seip syndrome): The clinical manifestations of Japanese siblings over approximately 20 years.	Clin Pediatr Endocrinol. 28(4) 139-145 2019 10	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Ogawa K Okanari K Kobayashi O 他	小児科	Respiratory assessment in a spinal muscular atrophy infant treated with nusinersen.	Pediatr Int. 61(10) 1051-1053 2019 10	Case report
52	Goto H Hirano N Kadowaki H 他	小児科	Clinical features of infantile subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma.	Pediatr Int. 61(12) 1261-1262 2019 12	Case report
53	Kawano-Matsuda F Shimada Y Omotobara-Yabe T 他	小児科	A case of septo-optic dysplasia with hereditary hemorrhagic telangiectasia: a previously unrecognized combination of malformations.	Clin Dysmorphol. 29(1) 49-52 2020 1	Case report
54	Hirano N Nishikawa K Hiratsuka T 他	小児科	Gastric Carcinoma as Second Malignant Neoplasm in a Survivor From High-risk Neuroblastoma.	J Pediatr Hematol Oncol. 42(2) 160-162 2020 3	Case report
55	Silman C Matsumoto S Ono A 他	放射線科	¹⁸ F-FDG uptake in the normal appendix in adults: PET/CT evaluation.	Annals of Nuclear Medicine. 33(4) 265- 268 2019 4	Original Article
56	Silman C Matsumoto S Yamada Y 他	放射線科	Subcapsular beaded appearance of the kidney on contrast-enhanced CT: indicative of dilated subcapsular lymphatics?.	Clinical Radiology. 74(7) 555-560 2019 7	Original Article
57	Ahmed R Kiyosue H Maruno M 他	放射線科	Coexistence of "extra-gastric afferent-efferent direct connection" with gastric varices: CT evaluation and clinical significance.	Addominal Radiology. 44(8) 2699-2707 2019 9	Original Article
58	Kamei N Yamada Y Hijiya N 他	放射線科	Invasive intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: relationships between mural nodules detected on thin-section contrast-enhanced MDCT and invasive	Addominal Radiology. 44(9) 3139-3147 2019 9	Original Article
59	Marun M Kiyosue H Hongo N 他	放射線科	Correction To: Where is the Origin of the Last Normal Branch from Feeding Artery of Pulmonary Arteriovenous Malformations?.	CardioVascular and Interventional Radiology. 42(10) 1510 2019 10	Others
60	Susutlerpanya W Wakuda H Otani N 他	臨床薬理セ ンター	Histological Evaluation of Nintedanib in Non-Alcoholic Steatohepatitis Mice.	Life Sci 228 251-257 2019 7	Original Article
61	Wakuda H Okura T Maruyama-Fumoto K 他	臨床薬理セ ンター	Effects of Anticholinergic Drugs Used for the Therapy of Overactive Bladder on P-Glycoprotein Activity.	Biol Pharm Bull 42(12) 1996-2001 2019 12	Original Article
62	Otani N Wakuda H Imai H 他	臨床薬理セ ンター	No Effect of Digoxin on Rosuvastatin Pharmacokinetics in Healthy Subjects: Utility of Oita Combination for Clinical Drug-Drug Interaction Study.	Clin Transl Sci 12(5) 513-518 2019 9	Original Article
63	Matsumoto Y Cabalu T Sandhu P 他	臨床薬理セ ンター	Application of Physiologically Based Pharmacokinetic Modeling to Predict Pharmacokinetics in Healthy Japanese Subjects.	Clin Pharmacol Ther 105(4) 1018-1030 2019 4	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
64	Sagawa N Ohno S Hiratsuka T 他	消化器外科	The utility of DHL-HisZnNa, a novel antioxidant, against anticancer agent-induced alopecia in breast cancer patients – a multicenter phase II clinical trial	Breast Cancer Res Treat 176(3) 625-630 2019 8	Original Article
65	Takayama H Ohta M Tada K 他	消化器外科	Additional effects of duodenojejunal bypass on glucose metabolism in a rat model of sleeve gastrectomy	Surg Today 49(7) 637-644 2019 7	Original Article
66	Tada K Iwashita Y Shiraiwa K 他	消化器外科	Pharmacokinetic and toxicodynamic evaluation of 5-fluorouracil administration after major hepatectomy in a rat model	Cancer Chemother Pharmacol 85(2) 345-352 2020 2	Original Article
67	Inomata M Shiroshita H Uchida H 他	消化器外科	Current status of endoscopic surgery in Japan: The 14th National Survey of Endoscopic Surgery by the Japan Society for Endoscopic Surgery	Asian J Endosc Surg 13(1) 7-18 2020 1	Original Article
68	Inomata M Kotake K Ajioka Y 他	消化器外科	Japanese Classification of Colorectal, Appendiceal, and Anal Carcinoma: the 3d English Edition [Secondary Publication]	J Anus, Rectum and Colon 3(4) 175-195 2019 10	Original Article
69	Fujinaga A Akagi T Etoh T 他	消化器外科	Laparoscopic two-stage operation for rectal cancer with refractory obstructive colitis after kidney transplantation: a case report	Surg Case Rep 6(1) Open Access 2020 2	Original Article
70	Fujinaga A Hirashita T Iwashita Y 他	消化器外科	A Case of Ruptured Mucinous Cystadenoma of the Pancreas with Recurrence-Free Survival for 8 Years	Surg Case Rep 6(1) Open Access 2020 3	Original Article
71	Akagi T Inomata M	消化器外科	Essential Advances in Surgical and Adjuvant Therapies for Colorectal Cancer 2018-2019	Ann Gastroenterol Surg 4(1) 29-46 2020 1	Original Article
72	Ogawa K Toujigamori M Inomata M	消化器外科	Venous malformation of the lung in an infant	J Pediatr Surg Case Rep 47 Open Access 2019 5	Original Article
73	Inomata M Kotake K Ajioka Y 他	消化器外科	I Guideline for classification	Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum 3 5-56 2019 4	Original Article
74	Akagi T Inomata M Hara T 他	消化器外科	Clinical Impact of D3 Lymph Node Dissection With Left Colic Artery (LCA) Preservation Compared to D3 Without LCA Preservation: Exploratory Subgroup Analysis of Data From	Ann Gastroenterol Surg 4(2) 163-169 2020 2	Original Article
75	Takayama H Ohta M Iwashita Y 他	消化器外科	Altered glycosylation associated with dedifferentiation of hepatocellular carcinoma: a lectin microarray-based study.	BMC Cancer 20(1) Online 2020 3	Original Article
76	Noda M Masuda T Ito S 他	消化器外科	Circulating PD-1 mRNA in Peripheral Blood is a Potential Biomarker for Predicting Survival of Breast Cancer Patients.	Ann Surg Oncol 21 Online 2020 3	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
77	Abe M Osoegawa A Karashima T 他	呼吸器外科	Erlotinib and bevacizumab combination therapy for afatinibrefractory leptomeningeal carcinomatosis from EGFR-mutated lung cancer.	Int Cancer Conf J 8(2) 81-85 2019 4	Case report
78	Kozaki S Miyamoto S Shuto T 他	心臓血管外科	Rupture of the Remaining Renal Artery Aneurysm While Waiting for Stage 2 Surgery for a Patient with Bilateral Renal Artery Aneurysms and Multiple Aneurysms.	Annals of Vascular Surgery 57 275.e5-275.e8 2019 5	Case report
79	Mori K Wada T Shuto T 他	心臓血管外科	Postoperative paraplegia after transapical transcatheter aortic valve implantation	Journal of Cardiology Cases 20(1) 23-26 2019 7	Case report
80	Kozaki S Miyamoto S Uchida K	心臓血管外科	Infected thoracic aortic aneurysm caused by Clostridium ramosum: A case report.	Journal of Cardiology Cases 20(3) 103-105 2019 9	Case report
81	Hatori K Kawashima T Mori K 他	心臓血管外科	Potential utility of new surgical hemostatic film using Hydrofit®: a preliminary study	Journal of Artificial Organs (J Artif Organs.) online 2019 9	Original Article
82	Kawashima T Hatori K Mizoguchi T 他	心臓血管外科	In vitro evaluation of the hemostatic effect of method involving the combined use of Hydrofit® and Spongel®.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery online 2020 1	Original Article
83	Tashiro N Sugata H Ikeda T 他	脳神経外科	Effect of individual food preferences on oscillatory brain activity.	Brain Behav. May :e01262. 2019 4	Original Article
84	Kaku N Noda S Tabata T 他	整形外科	Radiographic evaluation of linear wear of bipolar hemiarthroplasty devices in vivo.	J Clin Orthop Trauma. 10(4) 639-644 2019 7	Original Article
85	Kaku N Tagomori H Akase H 他	整形外科	Efficacy of vitamin E for mechanical damage and oxidation of polyethylene rim by stem neck impingement.	Clin Biomech (Bristol, Avon) 68 8-15 2019 8	Original Article
86	Kaku N Shimada T Tanaka A 他	整形外科	Ultrastructure and three-dimensional architecture of the anterior cruciate ligament in the knee joints of young and old monkeys.	Med Mol Morphol. 53(1) 7-14 2020 3	Original Article
87	Kaku N Shimada T Nogami R 他	整形外科	Histological evaluation of the acetabular labrum after bipolar hip hemiarthroplasty: a case report.	Med Mol Morphol. 2020 1	Original Article
88	Tanaka K Mizusawa J Naka N 他	整形外科	Ten-year follow-up results of perioperative chemotherapy with doxorubicin and ifosfamide for high-risk soft tissue sarcomas in the extremities: Japan Clinical Oncology	BMC Cancer 19(1) 819 2019 9	Original Article
89	Miyazaki M Ishihara T Abe T 他	整形外科	Effect of intraoperative position in single-level transforaminal lumbar interbody fusion at the L4/5 level on segmental and overall lumbar lordosis in patients with lumbar degenerative	Medicine (Baltimore) 98(39) 2019 9	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
90	Miyazaki M Ishihara T Abe T 他	整形外科	The Position of the Spinal Cord Relative to the Vertebrae in Adolescent Idiopathic Scoliosis	Medicine (baltimore) 98 (47) 2019 11	Original Article
91	Kanezaki S Miyazaki M Notani N 他	整形外科	Analysis of computed tomography-based infra-acetabular morphometry to assess the feasibility of infra-acetabular screws.	Arch Orthop Trauma Surg. 140(3) 359-364 2020 3	Original Article
92	Kanezaki S Miyazaki M Ishihara T 他	整形外科	Enhancement of the effects of intermittent parathyroid hormone (1-34) by bone morphogenetic protein in a rat femoral open fracture model.	Orthop Surg Res. 14 (1) 403 2019 11	Original Article
93	Kanezaki S Miyazaki M Notani N 他	整形外科	Minimally invasive triangular osteosynthesis for highly unstable sacral fractures: Technical notes and preliminary clinical outcomes.	Medicine(Baltimore). 98(24). 2019 6	Original Article
94	Abe T Kaku N Tabata T 他	整形外科	Long-term clinical results of bipolar hemiarthroplasty for osteoarthritis and rheumatoid arthritis of the hip: A retrospective study.	J Orthop 120-123 2019 8	Original Article
95	Abe T Miyazaki M Ishihara T 他	整形外科	Spinal epidural lipomatosis is associated with liver fat deposition and dysfunction.	Clin Neurol Neurosurg 2019 10	Original Article
96	Matsuda S Tanaka K Kawano M 他	整形外科	Long-term disease control by trabectedin in a patient with dedifferentiated liposarcoma: A case report	Medicine (Baltimore) 99(2) 2020 1	Original Article
97	Uehara M Shimizu F	形成外科	Progress report for intractable ulcer and osteomyelitis cases using autologous micrografts.	SAGE Open Med Case Rep 7 (WEB公開) 2019 5	Original Article
98	Uehara M Wei Min W Satoh M 他	形成外科	Fascicular turnover flap in the reconstruction of facial nerve defects:an experimental study in rats.	J Plast Surg Hand Surg. 53(3) 155-160 2019 6	Original Article
99	Matsuda-Hirose H Yamate T Goto M 他	皮膚科	Selective inhibition of beta-catenin/co-activator cyclic-AMP-response-element-binding protein - dependent signaling prevents the emergence of hapten-induced atopic	Ann Dermatol 31(6) 631-639 2019 12	Original Article
100	Sakai T Aoki C Mori Y 他	皮膚科	Site-specific microarray evaluation of spontaneous dermatitis in flaky tail mice	J Invest Dermatol 139(12) 2554-2557 2019 12	Original Article
101	Takeo N Fujiwara S Hatano Y 他	皮膚科	A case of non-rhododendrol whitening cosmetics-induced leukoderma	J Cutan Immunol Allergy. 2(4) 117-118 2019 8	Case report
102	Ueo D Yoshimizu F Shirasaka Y 他	皮膚科	Possible involvement of cancer producing thymic stromal lymphopoietin as an initiator of papuloerythroderma of Ofuji	Ann Dermatol 31(suppl) S56-S58 2019 8	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
103	Sato T Nishida H Goto M 他	皮膚科	Cutaneous histopathology of the tick-bite region in severe fever with thrombocytopenia syndrome	J Dermatol 46(5) 409-412 2019 5	Case report
104	Matsuda-Hirose H Sho Y Yamate T 他	皮膚科	Acute generalized exanthematous pustulosis induced by hydroxychloroquine successfully treated with etretinate	J Dermatol 47(2) e53-e54 2020 2	Case report
105	Shin T	腎臓外科・ 泌尿器科	Editorial Comment to Three-dimensional digital reconstruction of renal model to guide preoperative planning of robot-assisted partial nephrectomy.	Int J Urol 26(9) 933- 933 2019 7	Original Article
106	Mizoguchi S Amanda S Ni J 他	腎臓外科・ 泌尿器科	The role of prostaglandin and E series prostaglandin receptor type 4 receptors in the development of bladder overactivity in a rat model of chemically induced prostatic	BJU Int, 124(5) 883- 891 2019 11	Original Article
107	Ando T Kamegawa T Shin T 他	腎臓外科・ 泌尿器科	Lower urinary tract symptoms impair the quality of life in maintenance hemodialysis patients.	Renal Replacement Therapy 5(1) 2019 12	Original Article
108	Hirai K Ando T Shin T 他	腎臓外科・ 泌尿器科	A rare case of emphysematous spongiosis following urethral catheterization: A case report.	Urol Case Rep. 2019 10	Case report
109	Shinohara M Shin T Daa T 他	腎臓外科・ 泌尿器科	GATA-3 expression in primary pure choriocarcinoma of the bladder.	IJU Case Reports. 2020 1	Case report
110	Hirano.T Kadowaki.Y Matsunaga.T 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Interaction Between Regulatory T Cells and Antibody-Producing B Cells for Immune Responses at the Upper Respiratory Mucosa Against Nontypeable Haemophilus influenzae: In Vitro Assay Model	ANNALS of Otology, Rhinology & Laryngology 128(6) 45-51 2019 6	Original Article
111	Hirakawa T Nasu K Aoyagi Y 他	産科婦人科	ATM expression is attenuated by promoter hypermethylation in human ovarian endometriotic stromal cells	Mol Hum Reprod 25 295-304 2019 6	Original Article
112	Matsumoto H Shimokawa M Nasu K 他	産科婦人科	Clinicopathologic features, treatment, prognosis and prognostic factors of neuroendocrine carcinoma of the endometrium: a retrospective analysis of 42 cases from the Kansai Clinical	J Gynecol Oncol 30 e103 2019 11	Original Article
113	Yano M Ito K Yabuno A 他	産科婦人科	Impact of TP53 immunohistochemistry on the histological grading system for endometrial endometrioid carcinoma.	Mod Pathol. 32 1023-1031 2019 7	Original Article
114	Yano M Shintani D Katoh T 他	産科婦人科	Coexistence of endometrial mesonephric-like adenocarcinoma and endometrioid carcinoma suggests a Müllerian duct lineage: a case report.	Diagn Pathol 14 54 2019 6	Case report
115	Yano M Katoh T Hamaguchi T 他	産科婦人科	Tumor-to-tumor metastasis from appendiceal adenocarcinoma to an ovarian mature teratoma, mimicking malignant transformation of a teratoma: a case report.	Diagn Pathol 14 88 2019 8	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
116	Tsukamoto N Ishii K Anezaki S 他	救命救急科	Evaluation of Challenges in the Diagnosis of Spinal Injury Complicated with Trauma	Climoc in Surgery 5 2778 2020 3	Original Article
117	Nishida H Oyama Y Kusaba T 他	病理診断科・ 病理部	Large lung mass: Cytopathological features	Cytojournal 14 2019 11	Case report
118	Nishida H Oyama Y Kusaba T 他	病理診断科・ 病理部	A case of methotrexate-associated lymphoproliferative disorder (Lymphomatoid Granulomatosis) of the skin	Am J dermatopathol 41(6) 448-452 2019 6	Case report
119	Oyama Y Nishida H Kusaba T 他	病理診断科・ 病理部	Colon adenoma and adenocarcinoma with clear cell components – two case reports	Diagn Pathol 14(1) 37 2019 5	Case report
120	Nishida H	病理診断科・ 病理部	Genetic analysis of digital papillary adenocarcinoma	Br J Dermatol 180(5) 987 2019 5	Review
121	Suzuki Y Muraya N Fujioka T 他	薬剤部	Factors Involved in Phenoconversion of CYP3A Using 4beta-hydroxycholesterol in Stable Kidney Transplant Recipients	Pharmacological Reports 71(2) 276- 281 2019 4	Original Article
122	Nakahara R Sumimoto T Ogata M 他	薬剤部	Successful determination of nilotinib dosage by therapeutic drug monitoring in a patient with chronic myeloid leukemia developing hepatic dysfunction: A case report.	Clinical Case Reports 7(7) 1419- 1421 2019 6	Case report
123	Ono H Suzuki Y Kaneko T 他	薬剤部	High-sensitivity simultaneous quantification of tacrolimus and 13-O- demethyl tacrolimus in human whole blood using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem	Biomedical Chromatography 33(9) e4584 2019 9	Original Article
124	Eto D Tanaka R Suzuki Y 他	薬剤部	Comparison of performance characteristics between high- performance liquid chromatography and latex agglutination turbidimetric immunoassay for therapeutic drug	Journal of Clinical Laboratory Analysis 33(7) e22940 2019 9	Original Article

小計 9
計 124

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 目的、定義、対象者、対象事象、審査する委員会に関する事項（審議事項、組織、任期、委員長、委員会の開催要件、委員以外の出席、審査手続き、審査内容、調査方法、概念の啓蒙、守秘義務）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 6 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合はその主なポイントの解説を行っている。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

呼吸器内科臨床研修プログラム
 内分泌・糖尿病内科専門医育成プログラム
 リウマチ・膠原病内科専門医育成プログラム 他28件

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 85.33 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
門田 淳一	呼吸器内科	教授	38年	
柴田 洋孝	内分泌・糖尿病内科	教授	31年	
柴田 洋孝	膠原病内科	教授	31年	
柴田 洋孝	腎臓内科	教授	31年	
松原 悦朗	脳神経内科	教授	34年	
村上 和成	消化器内科	教授	36年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	31年	
白尾 國昭	血液内科	教授	36年	
白尾 國昭	腫瘍内科	教授	36年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	35年	
寺尾 岳	精神科	教授	34年	
井原 健二	小児科	教授	30年	
猪股 雅史	消化器外科	教授	31年	
杉尾 賢二	呼吸器外科	教授	37年	
杉尾 賢二	乳腺外科	教授	37年	
宮本 伸二	心臓血管外科	教授	35年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	33年	
津村 弘	整形外科	教授	38年	
清水 史明	形成外科	講師	20年	
波多野 豊	皮膚科	教授	27年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	36年	
久保田 敏昭	眼科	教授	37年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科	教授	35年	
檜原 久司	産科婦人科	教授	35年	
浅山 良樹	放射線科	教授	26年	
北野 敬明	麻酔科	教授	35年	
坂本 照夫	救命救急科	教授	42年	
片岡 晶志	リハビリテーション科	診療教授	32年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	34年	
駄阿 勉	病理診断科・病理部	教授	32年	
上村 尚人	臨床薬理センター	教授	28年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

(看護部)

- ・看護師向け段階別研修：期間、実施回数、参加人数は別紙のとおり
- ・看護管理者研修：副看護師長パワーアップトレーニング研修（外部講師）
1回目：令和元年12月5日 9：00～16：00 参加者：副看護師長32名
2回目：令和2年1月31日 9：00～16：00 参加者：副看護師長32名

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(放射線部)

(1) 放射線業務従事者教育訓練講習会

⇒放射線管理区域に入って放射線診療を行う者(新規対象者)ならびに更新者に対して、法令に基づき教育訓練研修を受ける必要がある。

- ・平成31年4月25日(新規) 参加者：56名
- ・令和元年6月26日(新規) 参加者：33名
- ・令和元年10月4日(新規) 参加者：26名
- ・令和元年5月17日(更新) 参加者：157名
- ・令和元年7月12日(更新) 参加者：48名

(2) 放射線技師室研修

⇒診療放射線技師対象の部内研修

- ・平成31年4月11日 医療機器安全管理研修(厚生労働省報告) 参加者：23名
- ・令和元年6月13日 医療安全研修(アナフィラキシー喉頭浮腫) 参加者：28名
- ・令和元年6月27日 医療機器安全管理研修(放射線の適正管理) 参加者：22名
- ・令和元年7月11日 医療安全研修(造影剤の安全性について) 参加者：22名
- ・令和元年9月5日 臨床技術研修(消化管手術術式について) 参加者：23名
- ・令和元年9月18日 医療機器安全管理研修(モニタの最新情報と品質管理) 参加者：21名
- ・令和元年10月16日 医療機器最新情報(CT装置) 参加者：24名
- ・令和元年10月28日 医療機器最新情報(FPD装置) 参加者：26名
- ・令和元年11月28日 英語論文研修 参加者：25名
- ・令和元年12月13日 英語論文研修 参加者：24名
- ・令和2年1月15日 医療安全研修(造影剤説明会) 参加者：22名
- ・令和2年2月20日 英語論文研修 参加者：25名

(検査部)

- ・研修の主な内容 災害対策教育研修会-医療技術部職員が知っておくべきこと-
- ・研修の期間・実施回数 12月9日 1回
- ・研修の参加人数 医療技術部職員 87名

(ME機器センター)

- ・メディカルスタッフ新採用者オリエンテーション：4月、92名
医療機器の安全使用を目的に全般の注意事項に関する内容
- ・看護部 ME機器研修：4月25日・26日、68名
新入職者を対象に医療機器の安全使用、一般病棟で使用する人工呼吸器などの生命維持管理装置、輸液ポンプやセントラルモニタに関する内容

- ・ME機器講習会：6月・11月、年2回、556・455名
全職員を対象に年2回実施、前期では基礎的知識や基本的な取り扱いとした内容、後期はインシデント事例や安全性情報に関連する内容
- ・各種の医療機器研修会：48回
各種医療機器の原理や適応、操作方法、インシデント事例・注意事項、トラブルシューティング等の内容

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

（薬剤部）

- ・研修の主な内容
新採用者オリエンテーションにより、本院において医療業務に携わる上で、各職員が必ず修得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。
- ・研修の期間・実施回数
平成31年4月1日（月）、4月2日（火）
- ・研修の参加人数
98名

（放射線部）

(1) 特定機能病院における定期研修

⇒安全使用に際して技術の習熟が必要と考える医療機器に関する研修を、年2回程度定期的
に実施することが義務付けられている。放射線部では放射線治療（リニアック）と密封小線
源治療（¹⁹²Ir）が該当する。

- 1) 日本放射線技術学会第78回放射線治療部会
・平成31年4月14日 参加者：1名
- 2) 2019医学物理士セミナー@九州
・令和元年5月25日 参加者：1名
- 3) 日本放射線治療専門放射線技師認定機構基礎セミナー（九州2）
・令和元年7月6日 参加者：2名
- 4) 日本放射線治療専門放射線技師認定機構基礎セミナー（九州1）
・令和元年8月3日 参加者：6名
- 5) 第15回日本放射線治療専門放射線技師認定機構教育セミナー
・令和元年8月24日 参加者：1名
- 6) 第66回放射線治療研究会
・令和元年11月10日 参加者：3名
- 7) マイクロセレクトロン安全使用講習会
・令和元年12月3日 参加者：9名
- 8) 第67回放射線治療研究会
・令和元年12月7日 参加者：6名
- 9) 第18回放射線治療システム研究会
・令和2年1月25日 参加者：2名
- 10) リニアック装置安全使用講習会
・令和2年3月3日 参加者：9名

(2) 新しい医療機器の導入時の研修

⇒医療用装置や機器を新しく導入する際は、当該医療機器を使用する者に対する研修を行う
必要がある。

令和元年度に新規導入実績なく、本研修は開催無し。

(3) コ・メディカル新採用者オリエンテーション

⇒新規採用となったコ・メディカル職員に対し、「放射線と放射線防護の理解」について講
義研修を実施した。

- ・令和元年4月1日 参加者：98名

(検査部)

- ・研修の主な内容 検査部・輸血部業務研修(通常検査・時間外検査の手順と検査項目の概要)
- ・研修の期間・実施回数 2019年4月から2020年3月 62回
- ・研修の参加人数 729名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(看護部)

- ・地域貢献看護技術研修(実地研修、講義・演習、訪問研修)：期間、実施回数、参加人数は別紙のとおり
- ・地域貢献管理者研修
テーマ：管理職に求められるモチベーション・マネジメントと段取り力
令和2年2月1日13：00～16：30 参加者：院外(110名)、院内(25名)

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

教育委員会評価資料
R1年度 レベル別 研修実績 対象年度:R1年度

研修名	人数	時間
新人看護職員研修		
新採用・サービスマナー・倫理	72	16
新人・フレッシュ研修	68	8
新人リフレッシュ研修	67	8
新人・1ラウンドフォローアップ	65	16
新人・2ラウンドフォローアップ	65	16
新人・1年目フォローアップ	65	16
技術演習	68	48
ME研修	72	16
薬の知識	72	2
褥瘡予防	71	1
新採用・医療安全管理	72	8
新採用・感染管理	72	8
BLS研修	68	8
看護過程I	70	48
コミュニケーション基礎編	71	16
マネジメントI(LI)	70	24
新採用既卒者1ヶ月後フォローアップ	4	1
新採用既卒者3ヶ月後フォローアップ	4	1
レベルI研修	1116	261
研修名	人数	時間
看護過程II(LII)	36	16
リーダーI(LII)	63	16
実地指導者研修	19	24
医療安全管理 レベルII	49	8
感染管理 レベルII	49	8
レベルII研修	216	72
研修名	人数	時間
リーダーII(LIII)	19	9.5
事例検討・ベナー(LIII)	21	8
教育担当者研修	17	24
医療安全管理 レベルIII	60	19
感染管理 レベルIII	25	4
看護倫理研修	24	2
災害看護	36	2
リフレクティブ研修	10	96
リフレクティブ研修フォローアップ	20	8
レベルIII研修	232	172.5
地域包括ケア(公開講座)研修生のみ	12	1.5
地域包括ケア(施設見学・発表・GW)	12	12
研修名	人数	時間
コミュニケーションスキル(リフレクティブ④)		
看護と倫理	17	7.5
フィジカルII(リフレクティブ⑦)研修生	14	8.5
論理的思考	12	8
がん化学療法看護	29	1.5
緩和ケア研修	9	1.5
がん看護	18	1.5
心電図の基礎知識(ベーシック)	64	7.5
心電図の基礎知識(不整脈)	20	7
心電図の知識(虚血)	30	7
皮膚排泄ケア	25	1.5
フィジカルI(リフレクティブ⑦)研修生	57	2
摂食嚥下障害看護I	22	1.5
周術期看護	22	1.5
糖尿病看護I	29	1.5
集中ケアII(人工呼吸器装着中の看	42	1.5
老年看護(1日)	17	7
慢性心不全看護	32	1.5
地域包括ケア(公開講座)研修生以外	24	1.5
脳卒中リハビリテーション看護	14	1.5
自主研修	497	71

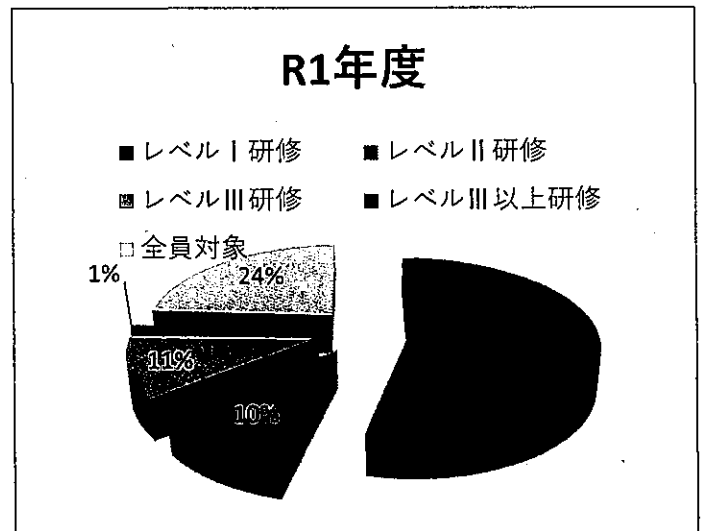
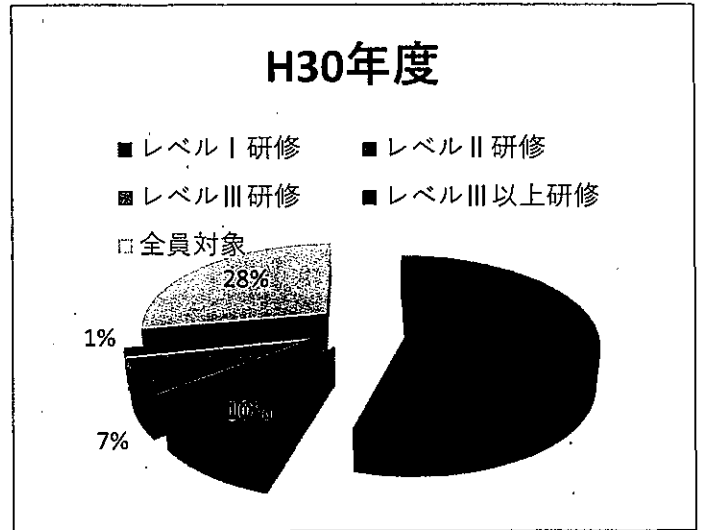
H30年度レベル別

受講者数	時間
レベルI研修	1116 238
レベルII研修	207 72
レベルIII研修	155 173.5
	13.5
全員対象	593 74
受講者総数	2135 571

R1年度レベル別

受講者数	時間
レベルI研修	1116 261
レベルII研修	216 72
レベルIII研修	232 172.5
	13.5
全員対象	497 71
受講者総数	2073 590

注) 全員対象: 自主研修



アクティブナース育成研修

研修名	人数	時間
スキンケア	11	3

助手研修

研修名	人数	時間
フォローアップ安全感染曝露	30	2.5
技術演習	30	4
BLS・接遇・倫理	34	2
総数	94	8.5

令和元年度 地域貢献看護技術研修 評価

1. 実地研修・講義研修の開催と参加人数

研修参加者総合計数

院外136名

院内24名

1) 実地研修

月日	研修項目	参加人数
11/15	人工呼吸器管理全般	5
11/29	来て・見て・わかるがん化学療法の実際	4
	人工呼吸器管理全般	4
		13

2) 講義+演習

月日	研修項目	参加人数	
		院外	院内
11/16	糖尿病看護：高齢者の血糖パターンマネジメントを学び、困り事を話し合おう	10	0
	救急看護：みつけよう急変徴候	29	7
	手術看護：事例から学ぶ周術期看護	11	0
	脳卒中リハビリテーション看護：極めよう！脳卒中看護の観察とリハビリテーション	4	4
	緩和ケア：明日から活かせる！臨死期・エンゼルケアのポイント	6	3
12/14	がん看護：考えてみよう！がん看護の様々な場面のコミュニケーション	4	8
	慢性心不全看護：事例で考える慢性心不全患者さんの看護	7	1
	感染管理：病院から在宅まで、切れ目ない感染対策	6	0
	摂食嚥下障害看護：誤嚥を予防する食事支援技術	13	1
	皮膚排泄ケア：高齢者のスキントラブル予防ケアを重視した実践	16	0
		106	24

2. 長期支援事業（訪問研修）

4分野5施設

研修分野	訪問施設	日程
糖尿病看護	別府医療センター	6月25日
皮膚・排泄ケア	河野脳神経外科	12月3日20日1月17日
	湯布院病院	7月27日
救急看護	みえ病院	12月21日1月18日
感染管理	大分中村病院	10月7日31日1月23日

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 三股浩光	
管理担当者氏名	診療記録管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者, 医療情報部長, 放射線部長, 看護部長, 各診療科長, 各診療施設長, 各課長	

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	診療に関する記録は電子カルテ内に保存している。 病院日誌は紙媒体で、医事課で管理している。	
		各科診療日誌	各診療科		
		処方せん	電子カルテ内		
		手術記録	電子カルテ内		
		看護記録	電子カルテ内		
		検査所見記録	電子カルテ内		
		エックス線写真	電子カルテ内		
		紹介状	電子カルテ内		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内		
		病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項		従業者数を明らかにする帳簿
高度の医療の提供の実績	医事課				
高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究・社会連携課				
高度の医療の研修の実績	医事課				
閲覧実績	総務課				
紹介患者に対する医療提供の実績	医事課				
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課				
規則第一條の十二第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医事課 (医療安全管理部)	医療事故報告の記録については、統計処理が行えるようデータ化して保管している。	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医事課 (医療安全管理部)		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医事課		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課 (医療安全管理部)
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 安部功一郎		
閲覧担当者氏名	総務課長 牧 尚宣		
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室		
閲覧の手続の概要			
・ 閲覧を希望する者は、総務課に申し込みを行う。			
・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全に関する基本的考え方2. 医療安全管理に係る体制確保のための組織等3. 医療安全管理に係る職員の教育・研修4. 医療事故発生時の対応5. 医療事故等の報告及び改善策の立案6. 院内死亡全例の報告及び検証7. 当該指針の閲覧8. 患者と医療従事者との間の診療情報の共有に関する基本方針9. 患者相談に関する基本方針10. その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供等）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無（ 有・無 ）・ 開催状況：年 1 3 回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。2. 医療事故の判定に関すること。3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。5. 医事紛争に関すること。6. その他医療安全管理上の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の内容（すべて）：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理マニュアルとポケット版マニュアルの改定について2. ラピッドレスポンスシステム（RRS）に係る講演会3. ME機器の基本的な取り扱いを身につけよう（第1回ME機器講習会）4. 医薬品の適正使用について（第1回薬剤セミナー）5. ME機器のトラブル事例と対応方法について（第2回ME機器講習会）6. スキンケアについて（褥瘡セミナー）7. 医療安全と薬剤の適切な取扱いについて（第2回薬剤セミナー）8. 令和元年度 医療安全のまとめ	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有・無 ）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。 全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 院内感染に対する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： 1. 感染予防対策の確立 2. 感染予防の実施、監視及び指導 3. 感染源の調査 4. 感染予防対策に関する情報の収集 5. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1. 感染対策の基本 2. 肺結核の基本と感染対策 3. 血液培養の重要性を認識し、実施しよう 4. 当院における新型コロナウイルス感染症に対する対応 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 院内の耐性菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な耐性菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 2. 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており、注意を要する抗菌薬については届出制とし、感染制御部の介入を実施している。 3. 感染制御部による院内ラウンドを定期的に行い、標準予防策や感染対策の実施状況の確認、指導を行っている。また、各種感染症サーベイランスも行っており、定期的に報告を行っている。 4. マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については、病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに、感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
・ 研修の主な内容： ○メディカルスタッフ新採用者オリエンテーション（対象：メディカルスタッフ新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○薬剤セミナー（医療安全管理セミナー）（対象：全職員） ○医薬品の取り扱いについて（ビデオセミナー）（対象：中途採用者）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 令和元年 8 月に全病棟・部門を対象に実施し、確認内容を保管記録している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 1. 原発不明がんに対するゲムシタピンの点滴投与 2. びまん性硬化性下顎骨骨髓炎に対するゾレドロン酸の点滴投与 3. 帯状角膜変性に対する 1%塩酸液の使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。 DI ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、その他必要に応じて 通知文書として院内通知している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年61回
<p>研修の主な内容：全従業者を対象としたME機器講習会（年2回）、新卒の医師・看護師の研修プログラム、新採用者のオリエンテーション、中途採用者等については電子カルテ認証登録時のビデオセミナーでは、有効性・安全性・使用方法・保守点検に関する内容とともに当院で不具合が発生した場合の対応やマニュアルや添付文書などの遵守すべき内容を特に周知している。</p> <p>1. ME機器講習会： 全従業者を対象に年2回実施、前期では基礎的知識や基本的な取り扱いとした内容、後期はインシデント事例や安全性情報に関連する内容等（医療材料含む）。</p> <p>2. 研修プログラム： 医療機器の取り扱いに関して組み込まれており、人工呼吸器などの生命維持管理装置や除細動器、ベッドサイドモニタや輸液ポンプなどの安全性や使用方法、保守点検に関して実機を用いた実習を含めた内容。</p> <p>3. 各種医療機器に関する研修会： 主に安全性や使用方法、保守点検に関してできる限り実機を用いた内容。</p> <p>4. 導入時・借用時研修： 新規導入時、生命維持管理装置や中央貸出機器の代替機やデモ機の場合には導入時研修と同様に内容を実施。</p> <p>5. 放射線関連： 医療法に掲げられた医療機器の安全使用のための研修として、①新しい医療機器の導入時の研修と②特定機能病院における定期研修（年2回以上）を実施している。①は、操作や取り扱いを担当するスタッフを対象として、安全使用に必要な項目について研修を行う。②は、直線加速装置（リニアック装置）、放射線照射装置（密封小線源治療）を担当する放射線治療診療放射線技師を対象として、技術・知識の習得が必要な講習会等に参加している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>1. 添付文書やマニュアルに記載されている保守点検に関する事項を参照し、医療機器の特性などから特に保守点検が必要と考えられるものについて、保守点検計画書を作成している。保守点検間隔については、実施の翌月から数え、12ヵ月を超えないこととしている。医療機器安全管理専門委員会にて、前期では進捗状況の報告、後期の年度末では実施状況と来年度の計画について報告・承認を得なければならない。</p> <p>2. 臨床工学技士や診療放射線技師等は機種別に作成された保守点検計画書に沿って実施しそれぞれが進捗状況の把握や責任者の押印にて確認している。</p> <p>3. 放射線関連 放射線部検査に使用する大型医療装置に関して、保守点検年間計画表を作成し、それに従って実施している。保守点検において、日常点検は機器日常点検表に従って実施・記録し、月ごとに管理者が確認している。定期点検は、原則製造メーカーに委託し、必要な項目について点検や調整などのメンテナンスを行う。装置毎にメンテナンスファイルを作成し、日常点検ならびに定期点検の結果を保管している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <ul style="list-style-type: none">・ アダカラム：既存の治療に反応しない難治性ベーチェット病、壊疽性膿皮症・ NRC RFトランスセプタニードルおよび対応するジェネレーター、アジリスステラブルシースセット、アキュナビ：径カテーテル塞栓後の肺動静脈奇形血流再発病変・ Cool-tip RFAシステム、LeVeen CoAccess Needle Electrode、RFALesionシステム：転移性	

および原発性肺癌

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 経営管理課は供給業者に対して、物品購入契約締結後1週間以内に物品購入契約書、入札内訳書、見積書、カタログおよび添付文書とともに医療機器マスター登録書に必要事項を記入の上、提出させる。これらの情報を基に医療機器安全管理システムにて照会し、設置部門での使用実績や同一機種がなく、新規導入機器であると判断した場合には、導入時研修の必要性の有無とともに医療機器安全管理責任者に報告する。
 2. 安全性情報等の収集に関する協力依頼については、安全使用のために必要な情報を製造販売業者から一元的に収集するために添付文書の改訂、自主回収・改修等の不具合情報や安全性情報について全て経営管理課に提出・報告を求める周知文書を納品時、6月・12月に供給業者に通知し、社内での周知も依頼している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 1 3 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>・医療安全管理責任者 医師 1 名（医療安全担当副院長、医療安全管理部長）</p> <p>・大分大学医学部附属病院医療安全管理体制に関する細則第 3 条において、「医療安全管理責任者を置き、副院長（安全管理担当）をもって充て、医療安全管理責任者は、医療安全管理部、メディカル・リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する。」旨規定している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 6 名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【院内の医薬品使用状況の確認】 毎月医薬品の使用状況（使用量、5ヶ月間未使用医薬品等）を確認している。また医薬品安全性情報の発出、医薬品自主回収の場合には、該当医薬品の使用状況を確認している。</p> <p>【各種情報の整理】 医療安全担当主任が収集した使用状況を整理し、必要な情報についてDI ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、通知文書等で周知している。周知状況は各部門・病棟毎に年 1 回確認票を基に確認している。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】 医療安全担当主任は、整理した情報を必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>【未承認等医薬品の処方状況の収集】 薬剤部にて調剤や病棟薬剤業務時に未承認等の医薬品の使用を知り得た場合には、医療安全担当主任へ報告し、担当主任は処方状況を収集している。</p> <p>【未承認等医薬品のリスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】 医療安全担当主任は収集した情報を基に、処方の妥当性およびリスク等を確認している。</p> <p>【未承認等医薬品を処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】 リスクおよび処方の妥当性を検討後、医療安全担当主任は適宜処方変更を医師へ提案している。さらに使用を継続する場合にはクオリティマネジメント室未承認新規医薬品等管理部門にて未承認薬の臨床使用について検討している。また、医療安全担当主任は検討結果についてリストを作成し、医薬品安全管理責任者へ必要に応じて報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師（医療安全担当主任））</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：令和元年 5 月に診療情報管理支援室で「検査等説明書」の記載項目の監査を実施。監査結果は、診療記録委員会、病院運営委員会、各診療科に報告。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>令和 2 年 1 月に診療記録委員会に診療記録監査チームを設置し、診療記録監査を実施。</p> <p>令和 2 年 3 月に監査結果報告書を作成し、診療記録委員会、病院運営委員会で報告。また、各診療科へ監査結果報告書と個別結果をフィードバック。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（17）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（7）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。6. 医療内容についての相談等に関すること7. 医療安全に係る連絡調整に関すること8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること9. 医療安全の推進に関すること10. 医療安全に係る診療の状況の把握及び職員の意識向上の状況の確認に関すること。11. その他医療安全に関し必要な事項 <p>医師については、専従医師を 1 名配置、薬剤師については、専従薬剤師を 1 名配置、看護師については、専従看護師を 2 名配置済である。</p> <p>診療内容及び従事者の医療安全の認識について、クオリティマネジメント室と協同し、平時からのモニタリングとして以下の項目を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none">・手術患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率・手術の予定出血量と実測値の比較・手術の予定手術時間と実際の手術時間の比較・定期的に開催するセミナーでの小テストの実施 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0 件）、及び許可件数（2 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術を実施する診療科の長（以下「診療科長」という。）から当該高難度新規医療技術の提供の申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、その実施を認める条件等について意見を求めること。
 2. 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、高難度新規医療技術の提供の申請を行った診療科長に対し、その結果を別に定める適否結果通知書により通知すること。
 3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
 4. 高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
 5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。
 6. 大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会における審査資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から 5 年間保存すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（90 件）、及び許可件数（90 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）

・活動の主な内容：

1. 未承認新規医薬品等を使用する診療科の長（以下「診療科長」という。）から当該未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会に対して当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び条件等について意見を求めること。
2. 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び使用条件等について決定し、未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請を行った診療科長に対しその結果を書面により通知すること。
3. 当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づき使用されていたかどうかに関し、定期的に、及び臨床使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づき臨床において使用されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
5. 未承認新規医薬品等の臨床使用の適否について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。
6. 大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会における審議資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 2 4 2 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 3 2 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
院内死亡症例の報告について検証・審議し、改善策の立案等を行うこと。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り ((病院名：信州大学医学部附属病院) ・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：和歌山県立医科大学付属病院) ・無)
- ・技術的助言の実施状況
入院前の面談による持参薬確認は看護師が中心に行っていたが、総合患者支援センター内にスペースを設け、薬剤師による持参薬確認(面談)を診療科限定(2診療科)で開始した。(10件/月)

なお、介入する診療科は今後拡大していく予定である。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- ① 患者相談窓口(医療安全相談室)の活動の趣旨：患者からの医療内容、医療安全等に関することの相談受付

患者相談窓口(医療安全相談室)の設置状況：窓口名称 医療安全相談室(患者相談窓口)

担当者及び相談に応じる職員：医療安全管理部副部長、医事課医療安全係長

責任者：副病院長(安全管理担当)

相談に応じる時間帯：月～金 8:30～17:15

- ② 医療安全管理マニュアル 総論 第7(患者相談)に下記のように定めている

- 1) 医療相談の受付窓口は、患者相談窓口とする。
- 2) 医療相談があった場合は、原則として医療安全管理部副部長が対応する。
- 3) 相談者との面談は、他者のいない個室で、職員2人以上で対応する。
- 4) 医療相談に携わる職員は、その相談情報の機密保護について厳に注意し、患者等が不利益を受けることがないように配慮する。
- 5) 医療相談を行った場合は、患者等からの相談・苦情報告書を作成し、病院長まで報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

令和元年度医療安全管理セミナー 8回実施

(うち6回は同内容でビデオセミナーを4回実施)

(うち1回はe-Learningにより実施)

(講師：薬剤師、褥瘡管理者、臨床工学技士、医師、看護師)

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

参加を予定した研修が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため受講できていない。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <p>【国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考等に関する規程（抜粋）】</p> <p>第 3 条 病院長候補者となることができる者は、医師免許を有し、かつ、国立大学法人大分大学の教授（教授予定者を含む。）であって、次の各号に掲げる資質及び能力を持つものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1） 人格が高潔で、学識に優れ、人望があり、かつ、医学部附属病院（以下「本院」という。）の現状を理解した上で将来の在り方に明確な理念を持ち、リーダーシップを発揮できる者 （2） 医療人教育機関である本院の責任を自覚し、優れた教育者として卒前教育、卒後研修及びその後の医療人養成に貢献できる者 （3） 高度な医療を実践する本院の責任を自覚し、最先端の医療の提供を推進できる者 （4） 患者の安全を第一として、医療安全の確保を担保する知識、経験及び能力を有する者 （5） 科学としての医学の重要性を理解し、医学研究機関である本院の医学研究の発展に貢献できる者 （6） 大分県の中核病院である本院のリーダーとして地域医療の現状を深く理解し、その維持及び発展に貢献できる者 （7） 病院の運営に関する経験を有し、病院経営を担う能力を有する者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
津村 弘	大分大学	○	大分大学医学部附属病院長選考会議細則第 3 条 1 項 1 号に基づく学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
山岡 吉生	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第 3 条 1 項 2 号に基づく医学部長	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
杉尾 賢二	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無

			第3条1項3号に基づく医学部附属病院副病院長	
宮崎 英士	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項4号に基づく医学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
藤木 稔	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項4号に基づく医学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
柴田 洋孝	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項4号に基づく医学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
花田 俊勝	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項4号に基づく医学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
平松 和史	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項4号に基づく医学部医学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
原田 千鶴	大分大学医学部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項5号に基づく医学部看護学科教授	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
富永 志津代	大分大学医学部 附属病院		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項6号に基づく医学部附属病院看護部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
近藤 稔	大分県医師会, 医療 法人近藤整形外科		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項7号に基づく学外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
田代 英哉	大分県病院局		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項7号に基づく学外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
内田 勝彦	大分県保健所, 大分 県東部		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項7号に基づく学外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
草野 俊介	社会福祉法人大分 県社会福祉協議会		大分大学医学部附属病院長選考会議細則第3条1項7号に基づく学外の有識者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針，中期計画，予算及び決算 等</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 ○医学部附属病院運営に関する連絡会 ○医局長会 ○医学部附属病院の院内専用ホームページより常時閲覧可</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・公表の方法 法人本部のホームページにおいて公表している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
三股 浩光	○	医師	病院長，認知症先端医療推進センター長，災害対策室長
柴田 洋孝		医師	内分泌・糖尿病内科長，膠原病内科長，腎臓内科長，血液浄化センター長
松原 悦朗		医師	脳神経内科長
村上 和成		医師	副病院長，消化器内科長，内視鏡診療部長，肝疾患相談センター長
高橋 尚彦		医師	病院長補佐，循環器内科長，検査部長，CCU部長
廣中 秀一		医師	血液内科長，腫瘍内科長，腫瘍センター長
宮崎 英士		医師	総合内科・総合診療科長
寺尾 岳		医師	副病院長，精神科長
井原 健二		医師	病院長補佐，小児科長，遺伝子診療室長，周産母子センター長
猪股 雅史		医師	副病院長，消化器外科長，小児外科長，卒後臨床研修センター長
杉尾 賢二		医師	呼吸器外科長，乳腺外科長，総合患者支援センター長，
宮本 伸二		医師	副病院長，心臓血管外科長，クオリティマネジメント室長，ME機器センター長
藤木 稔		医師	脳神経外科長，リハビリテーション部長
加来 信広		医師	整形外科長，リハビリテーション科長

(様式第 6-3)

清水 史明		医師	形成外科長
波多野 豊		医師	皮膚科長
秦 聡孝		医師	腎臓外科・泌尿器科長
久保田 敏昭		医師	眼科長, 材料部長, 移植・再生医療支援室長
鈴木 正志		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
橋原 久司		医師	病院長補佐, 産科婦人科長
浅井 良樹		医師	放射線科長, 放射線部長
北野 敬明		医師	麻酔科長, 手術部長, 集中治療部長
坂本 照夫		医師	救命救急科長, 高度救命救急センター長
河野 憲司		歯科医師	歯科口腔外科長
駄阿 勉		医師	病理診断科・病理部長
下村 剛		医師	医療情報部長
平松 和史		医師	副病院長, 呼吸器内科長, 感染制御部長, 医療安全管理部長
上村 尚人		医師	臨床薬理センター長, 総合臨床研究センター長
緒方 正男		医師	輸血部長
伊東 弘樹		薬剤師	副病院長, 薬剤部長
富永 志津代		看護師	副病院長, 看護部長
宮子 博		技術職員	医療技術部長
安部 功一郎		事務職員	副病院長, 医学・病院事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (・ 無)

- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

- ・ 規程の主な内容

【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】

(病院長)

第 3 条 病院に病院長を置く。

2 病院長は、病院の管理運営を総括し、職員を監督するため、次の各号に掲げる事項について権限を有する。

- (1) 病院の管理運営のために必要となる人事及び予算に関すること。
- (2) 病院の診療、教育及び研究に係る実施の許可、報告、調査、是正又は停止に関すること

- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割

【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】

(副病院長)

第 4 条 病院に副病院長 7 人を置き、総務・経営・企画担当、安全管理担当、医療人育成担当、先端医療・広報担当、薬事担当、看護担当及び事務担当とする。ただし、病院長が特に必要と認める場合は、更に 1 人の副病院長を置くことができる。

2 副病院長は、病院長の命を受け、次の各号に掲げる事項について病院長の職務を補佐する。

- (1) 副病院長 (総務・経営・企画担当)
主として本院における経営・企画等、運営戦略的事項全般に関すること。
- (2) 副病院長 (安全管理担当)
主として本院における医療安全管理及び危機管理に関すること。
- (3) 副病院長 (医療人育成担当)
主として本院及び関連病院における卒後臨床研修・地域医療研修の実施・計画等、医療人の育成に関する事項全般に関すること。
- (4) 副病院長 (先端医療・広報担当)
主として本院における先端医療、研究及び広報全般に関すること。
- (5) 副病院長 (薬事担当)
主として本院における薬事業務全般に関すること。
- (6) 副病院長 (看護担当)
主として本院における看護業務全般に関すること。
- (7) 副病院長 (事務担当)
主として本院における事務業務全般に関すること。
- (8) 副病院長 (特命事項担当)
必要に応じ置くものとし、主として病院長が指示した特命事項に関すること。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修、医薬品安全管理責任者講習会

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理責任者、大分大学医学部附属病院メディカル・リスクマネジメント委員会、医療安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務が適切に行われているかどうかについて、病院長に報告を求めること。 2. 前号に規定する業務に関し、実地の確認を行うこと。 3. 学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう求めること。 4. 医療安全管理に係る監査業務の実施結果について公表すること。 5. その他医療安全管理の監査及び評価に関し必要な事項 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法： 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者 その他の医療従事者以外の者	有・無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
医学部附属病院の業務に関し、特定機能病院の要件及び医療法改正に伴う体制整備等について
定期監査を年に一度実施している。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会で病院の管理運営に関する重要事項を、経営協議会で病院の収支報告について確認を行う。 ・ 会議体の実施状況 役員会 (年 13 回) ※令和 2 年 10 月 1 日時点の開催回数 経営協議会 (年 3 回) ※令和 2 年 10 月 1 日時点の開催回数 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 役員会 (有・無) (年 1 回) ※令和 2 年 10 月 1 日時点の出席回数 経営協議会 (有・無) (年 3 回) ※令和 2 年 10 月 1 日時点の出席回数 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 役員会 (有・無) 経営協議会 (有・無) ・ 公表の方法 法人本部のホームページにおいて公表している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿（経営協議会）			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
北野 正剛	大分大学	○	有・無
津村 弘	大分大学		有・無
桑田 悟	大分大学		有・無
大崎 美泉	大分大学		有・無
守山 正胤	大分大学		有・無
三股 浩光	大分大学医学部		有・無
相澤 仁	大分大学大学院福祉社会科学研究科		有・無
石井 久子	石井法律事務所 弁護士		有・無
井手 由美	大分大学教育学部同窓会「豊友会」事務局長		有・無
尾崎 春樹	学校法人目白学園 理事長		有・無
桑野 和泉	由布院玉の湯 代表取締役社長		有・無
杉原 正晴	大分交通株式会社 代表取締役社長 大分県経営者協会 会長		有・無
田代 英哉	大分県病院局長		有・無
姫野 昌治	株式会社大分銀行 取締役会長 大分経済同友会 代表幹事		有・無
広瀬 勝貞	大分県知事		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 病院HP内の該当URLを貼付し、毎年4月にメーリングリスト(学内周知文書)を用いて、周知を行っている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による評価 令和元年7月24日～7月26日受審	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページによる情報発信 病院広報誌の発行（年4回） 県内関連病院長連絡会議の開催（年1回）	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 チーム医療（外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等）を実践しており、複数診療科の医師及び多職種のスタッフが連携して対応を行っている。	